

2026(令和8)年度 杏林大学〈後期〉市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

2026/6/10 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
1	後期	健康・医療心理学 古川 綾子 (フルカリアヤコ) 保健学部 講師	健康・医療心理学では、医療と保健・産業領域における支援の可能性とその基礎となる理論を修得する。また公認心理師は、精神的な疾患を呈する人のみではなく、全ての人々を支援の対象とすることを理解し、健康に生きていく上での予防教育等について身に付けておくべき知識を修得する。	9/21(祝)～ 2027/1/18 ※祝日開講日含む ※14回目講義日は 12/24(木)です 毎週月曜日・2限 10:40～12:10
2	後期	高齢者福祉論 片桐 朝美 (カタギリトモミ) 保健学部 教授	現代の高齢者福祉は、基本学習段階においても法・制度を抜きに学ぶことは難しい。本講義では、まず高齢者の身体的特徴および生活環境問題について触れる。これらを踏まえ、複雑かつ、めまぐるしく変化してきた法律・制度の創設背景と法改正趣旨をわかりやすく説明し、現行制度の位置づけが理解できるよう展開していく。また、援助の具体的な理解が深まるような資料映像や事例などを用いて高齢者の生活と制度を関連付けられるように進めていく。	9/17～2027/1/7 毎週木曜日・2限 10:40～12:10
3	後期	コミュニケーション概論 八木橋 宏勇 (ヤギハシヒロシ) 外国語学部 非常勤講師	本講義は、いわゆる「グローバルコミュニケーション」の視点に立ち、日本語や英語という言語をとりまく世界的な状況の変化を踏まえながら、認知言語学・社会言語学・語用論のエッセンスを実例とともに講義していく。グローバル化した社会における日本語・英語、リンガフランカ(共通語)としての英語、非英語圏で多様化した土着化した独特な英語、日本における英語、日本語との対照における英語、といった諸側面を材料としながら、日本語と英語のコミュニケーションを様々なコンテキストで検討する予定である。	9/21(祝)～ 2027/1/18 ※祝日開講日含む ※14回目講義日は 12/24(木)です 毎週月曜日・4限 14:40～16:10
4	後期	英語学演習 I (文のしくみ) 稲垣 大輔 (イナガキダイスケ) 外国語学部 教授	今日、好むと好まざるとにかかわらず、情報の多くは英語で世界中を駆け巡っています。多くの学問分野の先端的情報も英語で発信されています。もし、その情報を得たければ、英語を読むことを通じて得なければなりません。また、もし、自分の主張を世界の人々に向けて発信したければ、英語でそれを書かざるをえません。この授業では、英語で書かれた英語学関連、主に統語論を扱った論文を演習形式で輪読します。統語論の基本的な考え方、理論的枠組、専門用語の概念などを理解した上で、論文の主張を正しく理解する能力を養います。同時に、手本となる良い論文を読むことを通じて、論文の全体的構成、論文の骨組みになる基本的な表現、議論を的確に展開する表現などを学び、実際に自分で使えるようになるアカデミックライティングの能力を身につけます。	9/22(祝)～ 2027/1/12 ※祝日開講日含む 毎週火曜日 2・3限 ※2コマのうちどちらか選択可 10:40～12:10(2限) 13:00～14:30(3限)
5	後期	宿泊産業論 木本 和男 (キモトカズオ) 外国語学部 非常勤講師	ホテルや旅館、簡易宿所など宿泊産業全般について講義します。宿泊施設発展の歴史をその創成期から現在のグローバルホテルチェーンの台頭までを概観し、現在の宿泊施設の経営モデルを世界・日本ともに紹介します。また、宿泊施設にはサービス業と不動産業の2つの側面があります。とくに不動産業の観点から、市場分析、開発や改装・売却に至るまでのプロセスを理解します。現在、ユニークな宿泊施設が各地に誕生していますが、業態の多様化などについても取り上げます。	9/22(祝)～ 2027/1/12 ※祝日開講日含む 毎週火曜日・2限 10:40～12:10
6	後期	韓国語圏研究 金 英周 (キムヨンジュ) 外国語学部 准教授	この講義では北朝鮮について研究していく。北朝鮮研究と、春学期の韓国の文学・文化研究によって韓国語圏研究がまとまることになる。北朝鮮を研究することは朝鮮半島の安定だけでなく、日本の安全保障さらには世界の平和のために欠かせないことである。そこで、ここでは未知の隣国でもある北朝鮮について、一つのテーマに特化させないで、できるだけ多くの分野を網羅的に扱っていく。 ※2026年度の講義では、北朝鮮のみではなく、元来歴史的に一つであった国が南北に分断されて以来、別々の国として体制を保持してきている南(韓国)と北(北朝鮮)を比較しつつそれぞれの体制における特徴に対する理解を深めることを目指す。	9/16～ 2027/1/13 毎週水曜日・3限 13:00～14:30
7	後期	国際会計基準論 内藤 高雄 (ナノウタカオ) 総合政策学部 教授	近年、多国籍企業の増大、経済・資本市場のボーダレス化、金融の自由化・国際化にともない、会計制度は急速にグローバル化されてきた。本講義では国際会計の諸問題を、国際取引会計、比較制度会計、会計制度の国際的統一の3つのカテゴリーに分けながら、それぞれについて詳説していくことにする。その際、現在、IFRSやIASという名称で話題になっている、会計制度の国際的統一の問題に力点を入れながら、最新の状況を織り込みながら、講義していく。	9/18～2027/1/8 毎週金曜日・4限 14:40～16:10
8	後期	国際政治経済学 三浦 秀之 (ミウラヒデユキ) 総合政策学部 教授	国際社会はアナーキーである。つまり、国内社会と異なり、中央政府が存在しないのである。しかしながら、そのことは国際社会に秩序が存在しないことを意味するのではない。国際社会は様々な制度を構築することにより、国境を越える経済的に問題に対処してきたのである。本講義では、国際政治経済学の基礎を体系的に学ぶことを目指しています。具体的には、近代以降の国家間の経済関係(特に貿易や投資の自由化)の政治的側面に焦点を当て、概観して行きます。	9/22(祝)～ 2027/1/12 ※祝日開講日含む 毎週火曜日・3限 13:00～14:30

2026(令和8)年度 杏林大学〈後期〉市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

2026/6/10 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
9	後期	経営学総論 谷 真哉 (タニ マサヤ) 総合政策学部 講師	企業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、日進月歩に移り変わる変化に対応するため企業経営の総合力が日々求められている。したがって、本講義では、総合的な視点から企業の「経営」を理解するため、経営学の基礎理論、会計学、マーケティングなど様々な理論から広く体系的に学び、企業を分析するための基礎を固めることを目的とする。	9/18～2027/1/8 毎週金曜日・4限 14:40～16:10
10	後期	ヨーロッパ政治論 島村 直幸 (シムムラ ナオユキ) 総合政策学部 准教授	西ヨーロッパ地域は、17世紀以降の近代の国際システムにとって主要な舞台であった。また19世紀後半の帝国主義の時代に、「西欧国家体系」と呼ばれる国際システムは、世界大(グローバル)に拡大した。しかし、20世紀後半の米ソ冷戦の時代も、アメリカとソ連の2つの超大国にとって、ヨーロッパは、お互いに死活的な国益にかかわる地域であった。講義では、まず以上の点を取り上げ、主権国家システムの歴史的な変遷を学ぶ。同時に、国際関係史の基礎知識を身につけることを目的とする。次いで、英米関係の400年を取り上げる。特に「特別な関係」と呼ばれるようになる第二次世界大戦後を講義で詳しく説明する。英米関係を見ることは、日米関係を見る上でも役に立つと期待できる。	9/17～2027/1/7 毎週木曜日 1限 9:00～10:30
11	後期	時事問題研究B<秋> 島村 直幸 (シムムラ ナオユキ) 総合政策学部 准教授	国際政治(経済)の時事問題について、レジュメや新聞記事などを題材にして理解を深めていく。必要に応じて、国内政治(経済)にも目を向ける。2024年は、アメリカ大統領選挙をはじめとして国際的に選挙の年であった。アメリカでは大統領選挙の結果、ドナルド・トランプが大統領に復権することとなり、2025年1月に第二次トランプ政権が発足した。国際社会は再び、「アメリカ第一主義」で「アメリカを再び偉大にする」ことを掲げるトランプ大統領と対峙することとなった。大統領選挙でトランプは、たとえば、「中国からの輸入に60%の関税を課し、それ以外の輸入にも一律で10-20%の関税を課す」と公約し、「ウクライナの戦争は、24時間以内に終わらせる」とも言っていた。そのため、国際社会は、世界関税戦争の勃発を危惧し、ウクライナに関しては、ロシアに有利な条件での「取り引き(ディール)」で停戦合意に向かうのではないかと懸念することとなった。第二次トランプ政権は、ロシア・ウクライナ戦争とガザ戦争という二つの戦争と「インド太平洋」地域での中国の脅威に対して、三正面の政策対応を求められる。しかも、国内政治では、保守とリベラルのイデオロギーの分極化や貧富の格差の拡大による深刻な「分断」に直面することになる。第二次トランプ政権の成立によって、既存の国際秩序が「瓦解」に向かう、という議論がある。またBRICSなど新興国の台頭を受け、地政学が復活した、という議論もある。21世紀の国際秩序は、いかなる方向へ向かうのであろうか。 ※ 前期開講の「時事問題研究B(春)」と内容は同じです	9/21(祝)～ 2027/1/18 ※祝日開講日含む ※14回目講義日は 12/24(木)です 毎週月曜日・4限 14:40～16:10
12	後期	租税法Ⅱ 若林 俊之 (ワカバヤシ トシユキ) 総合政策学部 非常勤講師	租税法について、その全体を俯瞰するとともに、各税法の主旨、法の成り立ち、その取扱いなどについて、主に法人税法及び相続税法を題材として考えを深めていく。租税は、日本国憲法30条に納税の義務が掲げられ、さらに84条において、その執行を法律によるものとする租税法主義が定められている。日本の民主主義社会の根幹となるのが租税であるため、その理解を通じて、社会に求められる公平性を考察する。	9/18 ～ 2027/1/8 毎週金曜日・1限 9:00～10:30
13	後期	中国の思想 森 和 (モリ マサシ) 外国語学部 准教授	この科目は、近代以前の中国の思想について講義形式で学びます。中国だけでなく、東アジア全域に大きな影響を与えた儒教を始めとして、春秋戦国時代に活躍した「諸子百家」の思想をいくつか取り上げ、原典史料を読み解きながら、基礎的な知識や特徴を理解し、歴史的な背景と影響などを考えます。さらに、これらの古代思想の現代社会における意味合いについて考えることで、異文化理解を深めてゆきます。	9/22(祝)～ 2027/1/12 ※祝日開講日含む 毎週火曜日・3限 13:00～14:30
14	後期	日中比較文化論Ⅱ 森 和 (モリ マサシ) 外国語学部 准教授	日本と中国は大変長い間交流してきました。漢字を共有するだけでなく、文化の基盤をも共有してきたのです。例えば、日本における「お月見」は旧暦の八月十五日夜の満月を觀賞し、お団子を食べる習慣ですが、この習慣は中国にもあり、その由来を求めるとどうやら唐代に始まったらしいことがわかるのです。現代の日中の文化はあまり接点がないかのように見えますが、実はさまざまな点で同じルーツを持っているのです。お正月のように、東アジアの国々の多くは旧暦で祝い、ほとんど日本のみが新暦で祝い、という相違もありますが、現代でも東アジア、特に日中に共通の習慣はけっこう多いのです。この授業では、歳時を通して、日中の文化を比較していきます。	9/17～2027/1/7 毎週木曜日・4限 14:40～16:10
15	後期	フードビジネス論 西山 桂子 (ニシヤマ ケイコ) 外国語学部 准教授	外食産業は、多種多様な業態が開発され変化の激しい産業である。本講義では、外食産業の歴史、競争環境や組織構造のほか、この産業に特徴的なオペレーションシステムや多店舗展開、垂直統合などについて具体的事例を分析しながら学ぶ。フードテックなどの最新トピックや企業の新しい取り組みを紹介し、計数管理とサービスの両面から外食企業の経営を体系的に学ぶ。	9/17～2027/1/7 毎週木曜日・2限 10:40～12:10

2026 (令和8) 年度 杏林大学〈後期〉市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

2026/6/10 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
16	後期	環境経済学 斉藤 崇 (サイトウ タカシ) 総合政策学部 教授	TVやインターネットなどで、環境問題の話題にふれることは、日常的なものになっている。環境汚染がなぜ起こるのか、それをどのように解決していったらよいか、ということについては、いろいろな学問的立場から考えていくことができる。そのなかで、「社会の仕組み」から環境問題について考えていくことの重要性が高まってきている。 この授業では、社会の仕組みをとらえる学問の1つである経済学の立場から環境問題を眺めていく。講義は大きく3つの部分から構成されている。まず地球温暖化やオゾン層破壊など、地球規模での環境問題を例にとって経済学的な切り口を中心として掘り下げていく。次に環境問題が悪化してしまう要因、あるいは環境保全がなかなか進まない背景について、経済活動と環境負荷の関係に注目しながら考えていく。そして最後に環境保全と経済活動をどのように両立させていったらよいかを考えていく。ここでは環境ビジネスについても取り上げていく予定である。 環境問題のすべてを経済学の視点だけで考えていくことは難しいかもしれないが、経済学の切り口から新たに明らかになるものもある。受講する学生は、この授業を通じて、これまでとは異なった見方で環境問題について考えることができるようになって欲しいと考えている。	9/17～2027/1/7 毎週木曜日・3限 13:00～14:30
17	後期	エコツーリズム論 小堀 貴亮 (コホリ タカアキ) 外国語学部 教授	「持続可能な発展」への貢献を背景として生まれたエコツーリズムは、全世界において重要な観光形態として定着した。日本においても1990年代に「輸入」されて以降、拡がりを見せてきた。本講義では、このエコツーリズムについて多角的な視点から学んでいく。具体的には、世界と日本におけるエコツーリズム展開の歴史と理論面での基礎知識を学んだ後にケーススタディを行うことで、エコツーリズムの現代的課題について検討していく。	9/18～2027/1/8 毎週金曜日・3限 13:00～14:30
18	後期	健康科学の基礎 小堀 貴亮 (コホリ タカアキ) 外国語学部 教授	観光・ホスピタリティ分野においては、近年「美容・健康」ならびに「保健・衛生」との関わりについて注目が集まっている。それは主として2つの時流に基づいている。 ①「心身のリフレッシュ」「美容増進」「健康回復」等が非日常空間への移動目的として定着した結果、ウェルネス・ツーリズムという観光形態が確立されてきた。 ② 観光行動を通じた感染症の拡大、ホスピタリティ産業における食中毒などは、これまでもリスクとして論じられてきたが、2019年に発生し瞬く間に世界を席卷したCOVID-19によって、観光・ホスピタリティ分野と保健・衛生の関わりがこれまで以上に重要視されることとなった。 以上のような背景を踏まえ、観光交流文化学科では、医療・保健系学部を母体とする本学の特徴を生かし、主に2年次以降にウェルネス・ツーリズムを軸とした科目群が展開されていく。 本科目はその導入科目として、「保健・衛生」「美容・健康」の視点から見た観光・ホスピタリティ分野との関わりについてトピックからアプローチすることで、関連分野の基礎的な知識を幅広く身につけることを目的とする。 さらに、日々の営みからより健康を享受でき、充実して活力ある生活を送ることができる術を体験・会得することを観光の付加価値とするための、基礎的な保健学の知識・技術を解説する。	9/22(祝)～ 2027/1/12 ※祝日開講日含む 毎週火曜日・5限 16:20～17:50
19	後期	政治コミュニケーション論 木暮 健太郎 (コクレ ケンタロウ) 総合政策学部 教授	この授業では、まず、メディアの発展が社会にどのような影響を与えたのかを理解する。その上で、現代のマスメディアが政治に対してどのような存在として位置づけられるのかを考察していく。授業では適宜、アクティブラーニングの手法を取り入れる。 他の政治系の科目を理解する上でも基礎となる内容である。マスメディアが政治に対してどのような影響を与えているのかを理解することが目標である。	9/18～2027/1/8 毎週金曜日・4限 14:40～16:10
20	後期	社会福祉政策論2 岡村 裕 (オカムラ ヒロシ) 総合政策学部 教授	社会福祉政策を社会における福祉資源の分配の基本方針として解説する。一般的に福祉資源は、家族による贈与、市場における交換によって入手されるが、それが困難な人々に対しては社会サービスとして再分配されることになる。その分配形態は、特別な人々のみ行う選別的な分配や、すべての人々を対象とした普遍的な分配など様々である。講義を通じて、人間が福祉を達成するために必要な福祉資源の開発および分配形態の種類やその特徴について理解を深める。 ※ 前期開講の「社会福祉政策論」と内容は同じです	9/18～2027/1/8 毎週金曜日・1限 9:00～10:30



←各授業のシラバスはこちらから確認することができます。

【申込受付期間】 前期期間 2026年3月 3日(火)～3月19日(木)
後期期間 2026年7月15日(水)～8月15日(土)

前期：受付終了しました

【対 象】 原則、18歳以上の方で、大学レベルの講義に関して学習意欲のある方。

【募 集 人 員】 各講座 5名まで（申込多数の場合は、締切前に申込をお断りすることもあります）

【受 講 料】 1科目 11,000円

- ※ 三鷹市在住の18歳以上の市民(学生を除く)の場合、年間1科目を限度に1,500円を助成します。
助成を希望される方は証明書類(運転免許証・健康保険証等)を三鷹ネットワーク大学 申込窓口にて提示ください。
- ※ 教材費がある場合は、実費負担となります。

【申込・支払方法】 三鷹ネットワーク大学の窓口で現金にて支払(受講申込書あり)

■ 注意事項等

- ◇ 講義は正規学生と共に受けていただきます。(授業運営や内容は正規学生に向けた構成です)
- ◇ 学内のルールを守られない方や正規学生及び他の受講生、教職員への迷惑行為をされた方は期間中でも受講をお断りします。(受講料の返還はありません)
- ◇ 欠席された場合、原則として講義のレジュメ等の取り置きはいたしませんのでご了承下さい。
- ◇ 一旦申込まれた講座の変更は原則としてできません。(受講料の返還はありません)
- ◇ 公共交通機関をご利用下さい。
- ◇ 講義は原則として対面形式で行われますが、変更となる可能性もあります。
- ◇ 休講情報等、大学からの連絡は原則e-mailで行いますので

PC・タブレット・スマートフォンいずれかの機器をご用意いただき、e-mailの送受信ができるよう予めご準備下さい。

※ 機器をお持ちでない方は別途ご案内させていただきます。詳細はお問合せ下さい。

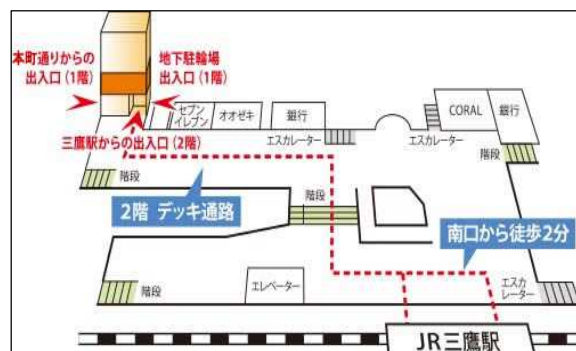
市民聴講生講座に関する問い合わせ先

杏林大学（井の頭キャンパス） 地域交流課
〒181-8612
東京都三鷹市下連雀5-4-1
TEL：0422-47-8000（代表）
窓口取扱時間
平日：9：00～17：00
(土日・祝祭日は対応しておりません)



申込・支払先

特定非営利活動法人
三鷹ネットワーク大学推進機構
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-3
三鷹駅前協同ビル3階
TEL：0422-40-0313
開館時間
火曜日～土曜日：9：30～21：30
(入館は21：00まで)
日曜日：9：30～17：00



杏林大学 2026(令和8)年度 後期 開講日程

曜日 回	月	火	水	木	金
第1回	9月21日 ※祝日開講	9月22日 ※祝日開講	9月16日	9月17日	9月18日
第2回	9月28日	9月29日	9月30日	9月24日	9月25日
第3回	10月5日	10月6日	10月7日	10月1日	10月2日
第4回	10月19日	10月13日	10月14日	10月8日	10月16日
第5回	10月26日	10月20日	10月21日	10月15日	10月23日
第6回	11月2日	10月27日	10月28日	10月22日	10月30日
第7回	11月9日	11月3日 ※祝日開講	11月4日	10月29日	11月6日
第8回	11月16日	11月10日	11月11日	11月5日	11月13日
第9回	11月23日 ※祝日開講	11月17日	11月18日	11月12日	11月20日
第10回	11月30日	11月24日	11月25日	11月19日	11月27日
第11回	12月7日	12月1日	12月2日	11月26日	12月4日
第12回	12月14日	12月8日	12月9日	12月3日	12月11日
第13回	12月21日	12月15日	12月16日	12月10日	12月18日
第14回	12月24日(水) ※第14回目は 木曜日です	12月22日	12月23日	12月17日	12月25日
第15回	2027(令和9)年 1月18日	2027(令和9)年 1月12日	2027(令和9)年 1月13日	2027(令和9)年 1月7日	2027(令和9)年 1月8日
補講日	10月24日(土)・11月7日(土)・12月12日(土) 2027(令和9)年1月14日(木)・1月15日(金)				
定期試験 期 間	2027(令和9)1月19日(火)～1月28日(木) ※科目により定期試験を実施します。 聴講生は受験は任意です。成績評価はつきません。				

※祝日開講は授業実施日です

10月9日(金)・10日(土)は杏林祭です